



Hino Advancement Center Newsletter

日野振興センターだより

令和4年12月発行 no.39

県無形文化財指定 下町屋荒神神樂



MENU

- 日野振興局 新人職員 農林家研修体験記
- 令和4年度 鳥取県優秀経営農林水産業者等表彰 ―日野郡内で受賞された方をご紹介します―
- 全国和牛能力共進会に日野郡から「いとほな」号が出品
- 道路の除雪作業が始まります
- 伯備線この100年、次の100年
- 日野郡で輝く人「フラワーデザインスタジオ春の柚」 加藤 浩美さん
- 新型コロナウイルス又感染症



日野振興局 新人職員

今年度、日野振興局に農林担当職員として3名の元気な新人が配属されました。現場の声を聞き現場第一主義で業務に当たることができる職員を育成するため、この3名が農林家の実作業を経験させていただき研修に参加しましたので、それぞれの研修概要を報告します。

農林業振興課 主事 岩竹 美香

（研修先）

鳥取市福部町らっきょう園場、福部らっきょう加工センター

（研修内容）

8月19日に「らっきょう産地援農ボランティア体験ツアー」に参加し、植付体験と加工センターの見学を通して本県の特産品であるらっきょうについて学びました。

（学んだこと・感想）

砂丘らっきょうは砂地という栄養が少ない環境で育つことから皮が薄くなりますが、それがシャキシャキとした歯ごたえにも繋がり、大きな魅力になっています。

今回体験した植付作業は機械化が難しく、真夏は砂地の表面温度が60℃にもなる暑さの中、福部町では現在もほぼ手作業で行われています。そんな過酷な労働環境の中で少しでも快適に作業するために使われている農作業用膝当て「らくだに」を着用すると、地面の温度がほんのり温かく感じる程度まで緩和されて驚きました。多くの農家が中腰で作業されているようですが、作業姿勢の選択が増えるのはとても良いと思いました。

今回の研修で体験した植付作業をはじめ、砂丘らっきょう生産には知られざる苦労があることを知ることができました。らっきょう農家、JA、農業改良普及所の皆さんから様々な視点でのお話を聞くことができ、大変勉強になりました。らっきょうは5〜6月ごろ収穫を迎えます。簡単に漬けるだけの「洗いらっきょう」もあるとのこと、来年は美味しく食べることも挑戦してみたいと思います。

快晴かつ温度も低く作業しやすい環境だったそうです。（それでも十分に過酷でしたが…）



↑らくだに(赤色)着用 敵を崩さないのがポイント

同日野振興局 農林業振興課 電話:0859-72-2018 FAX:0859-72-2125

農林業振興課 農林技師 中村 祥太郎

（研修先）

大山町 林家 清水 泰さん

（研修内容）

9月7日〜9日の3日間にわたり、高級材として知られる大山アカマツのほか、スギ、ヒノキなど、約90ha(東京ドーム約20個分の森林を管理する専門林林家での実作業を通じ、林業経営の難しさを学びました。

（学んだこと・感想）

台風11号の影響でアカマツの倒木があり、チェーンソーとグラブ（木を持ち上げる機械）を用いた玉切り処理や、そのアカマツ材を木材市場へ運搬するという一連の流れを体験させていただきました。倒木処理の作業中にグラブのバッテリーが上がった時は、山奥での作業の大変さを実感しました。また、清水さんから、後継者がいないことや、農業、漁業と違い1年で結果が出ないこと、木を植えてから30〜40年経つようやく収益が出るという点など、林業を長く続けていく上での苦労話もお聞きしました。個人経営で広大な森林を管理していくことは、本当に大変であると感じました。

私は林道担当として林道設計や監督業務に取り組んでいます。今回、林道を利用して木材を市場に運搬する体験を通じ、林道整備の重要性について身をもって実感できました。これからも山で伐採した木を効率的に運び出し、災害にも強い林道を作るために技術を学んでいきたいです。



台風の影響で折れたマツの木



グラブを使った倒木処理



玉切りした倒木を木材市場に搬入

同日野振興局 農林業振興課 電話:0859-72-2022 FAX:0859-72-2125

日野農業改良普及所 改良普及員 吹野 颯音

（研修先）

株式会社エイト（日南町阿尾線1224・1）

（研修内容）

9月5日〜7日、15日〜16日の5日間にわたり、日野郡特産野菜のトマトと水稲の複合経営をしておられる法人で、実作業を経験し農家の生活を学ぶことを目的に研修させていただきました。

（学んだこと・感想）

早朝5時40分から作業終了の17時まで、トマトの収穫、玉釣り（トマトの重さで枝が折れないように支柱に結び付ける作業）等を中心に行い、農家の一日や農作業の大変さを経験することができました。

この時期のメインとなる玉釣りや収穫では、従業員の方がほぼ立ち止まることなくテキパキと作業をされており、熟練の技を近くで見ることができました。従業員の方に話を聞いた際に「慣れれば早くなるよ」とおっしゃっていて、毎日の作業の積み重ねによってこの作業スピードになっているのだと感じました。

非農家で野菜栽培経験に乏しい私ですが、これからの普及活動や現場で学んだことを一つ一つ蓄積し、早く一人前の普及員になれるよう努力していきます。

トマトの作業をするのは今回が初めてで、とても緊張していましたが、皆様優しく丁寧に教えてくださったおかげで、トマト栽培の一端を学ぶことができました。株式会社エイトの皆様ありがとうございました。



【玉釣り作業の様子】 手袋をつけての作業なので難しい！



【玉釣り後のトマト】 枝が折れてしまうと、玉が小さくなったり、変形してしまうため、重要な作業です。



【収穫されたトマト】 従業員の方の作業スピードに驚きました！

同日野振興局 日野農業改良普及所 電話:0859-72-2025 FAX:0859-72-2090

令和4年度 鳥取県優秀経営農林水産業者等表彰

— 日野郡内で受賞された方をご紹介します —

鳥取県農林水産業の発展を図るため、優れた技術及び経営の農林水産業者を知事表彰するものです。

令和4年度は、6部門において日野郡の個人1名を含む37経営体・組織が表彰され、10月19日に鳥取市の鳥取市民会館大ホールで表彰式典が行われました。

日野郡内では日南町の坪倉弘和さんが、就農直後から安定して高い営農実績を維持しつつ、地域農業の課題解決に向けて積極的に将来像を話し合うなど、幅広い視点を持って意欲的に農業に取り組まれている点を評価され、「未来を担う青年農林水産業者」部門で受賞されました。今後の益々のご活躍を期待しています。

受賞者コメント

平成28年にUターンしたのち、日南町の農業研修制度を活用して1年間のトマト栽培を研修し、平成29年4月に独立就農しました。農業研修生として学んだ経験を生かして、就農した年から安定した単収と販売額を維持することができました。

また、ハウスの整理整頓やコスト計算にも気を付けながら、農業技術だけでなく、農業全体を取り巻く社会情勢についても意識するようにしています。

この他にも、将来を担う若手の一人として地域の将来像を描きながら、人・農地プランや農地の基盤整備に向けた話し合いに積極的に参画しています。



未来を担う 青年農林水産業者

坪倉 弘和さん

(トマト:日南町阿尾線)

蜜蜂を飼育される方へのお知らせ

蜜蜂を飼育される方(趣味の養蜂を含む。)は、養蜂振興法の規定により毎年1月31日までにその年の「蜜蜂飼育届(1月1日〜12月31日の飼育計画)」を県に提出する必要があります。

日野郡にお住まいの方は日野振興センターに提出してください。手続き等についてご不明な点がありましたら、下記の間合せ先にご連絡ください。



同日野振興局 農林業振興課 電話:0859-72-2026 FAX:0859-72-2011

同日野振興局 農林業振興課 電話:0859-72-2022 FAX:0859-72-2125

全国和牛能力共進会に日野郡から「いととはな」号が出品



大型デントの審査会場



審査を受ける鳥取県チーム

全国和牛能力共進会とは

全国和牛能力共進会(以下「全共」)は5年に1度開催されることから和牛のオリンピックともいわれ、全国の予選を勝ち抜いた和牛が一堂に会して体型や肉質を競う大会です。

今年の第12回大会は10月6日から10日までの5日間、鹿児島県霧島市牧園町で開催され、鳥取県からは全区で21頭の代表牛が出品されました。

日野郡から「いととはな」号が出品される

6区の総合評価群に日野郡日南町の山形美智也氏所有の「いととはな」号が出品されました。この部門は全9部門の中の1部門で、体型と肉質の両方を競う唯一の部門であることから花の6区ともいわれています。(表)

山形氏が飼養する繁殖雌牛に、鳥取県畜産試験場が飼養する種雄牛「元花江」(もとはなえ)を交配して生まれたのが「いととはな」号です。子牛のころから体型及び発育が良好であったことから全共出場を目指して育成し、県の最終予選を勝ち抜き、種牛区(体型を審査する区)の代表牛として選抜されました。

「いととはな」号が出品された種牛区は7位と健闘しましたが、肉牛区が11位と振

るわず、結果は総合10位と満足のいくものではありませんでした。

表 全共の出品区分

区分	対象	出品単位	審査基準
1区	若雄	1頭	体型
2区	若雌の1	1頭	
3区	若雌の2	1頭	
4区	繁殖雌牛群	血縁関係のある3頭	
5区	高等登録群	母、子、孫の3頭	
6区	総合評価群	種牛区 雌4頭 肉牛区 去勢3頭	肉質
7区	脂肪の質評価群	3頭で1組	
8区	去勢肥育牛	1頭	
特別区	高校及び農業大学校	1頭	体型

次回北海道全共に向けて

今回、出品にあたっては美智也氏の長男の俊樹氏がハンドラーとして出場されました。俊樹氏は平成19年に地元鳥取県で開催された全共に当時在籍していた農業大学校からの出場を目指して



「いととはな」号と山形俊樹氏

ましたが、惜しくも県最終予選で敗退し出品することができませんでした。今回はその時の悔しさをバネに県の1次予選会、最終予選会に向けて「いととはな」号の調教・運動・手入れに励み、ついに県代表を勝ち取りました。今回、上位入賞とはなりませんでしたが、俊樹氏は「通常の飼養管理とは異なる出品牛の管理や調教技術に触れ、貴重な経験をすることができた」と技術と経験の蓄積を実感されています。

今回の全共は令和9年に北海道で開催されますが、今回の経験を活かしてさらに上位を狙ってほしいと思います。

道路の除雪作業が始まります

雪の季節がやってきました。今年も万全の体制で道路の交通確保に努めてまいります。

日野郡は鳥取県の中でも雪の多い地域であり、大雪となると道路交通だけでなく、県民の生活にも多大な影響が及ぶことがあります。安全安心な冬を過ごすためには、皆様の協力が重要です。

道路の除雪作業を円滑に行うため、次のことについて、皆様の御理解と御協力をお願いします。

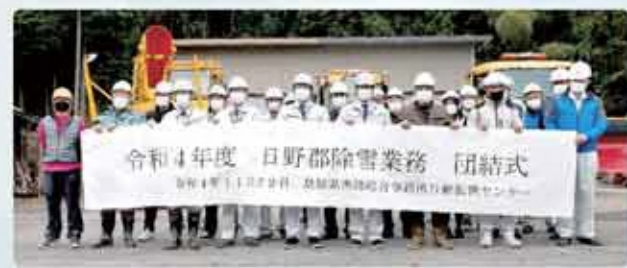
- 路上駐車は除雪作業の妨げとなりますので絶対にしないでください。
- 深夜・早朝の作業にご理解をお願いします。
- 家の前の雪かきは各自でお願いします。
- 車道に雪を出さないでください。
- 道路に張り出した枝や倒木等は、所有者で除去するようお願いいたします。



日野郡除雪オペレーター育成研修会・日野郡除雪業務団結式を開催しました

除雪シーズンを前に、除雪車オペレーターが除雪車両の特性や操作の注意点などを学ぶ研修会が日野振興センターで開催されました。研修会は鳥取県日野建設業協会が主催し、会員企業の従業員など9名が参加しました。研修会後は、日野町にある鳥取県の本郷車両基地において、除雪業者、役場関係者、日野振興センター関係者で、除雪業務団結式を開催しました。

団結式では、日野振興センター板本所長の激励の挨拶のあと、除雪業者代表であるサワタ建設株式会社の木下創介さんから「除雪は地域の皆様の日常生活に必要不可欠なもの。地域の皆様のためにしっかりと除雪を行います。」という力強い決意表明が行われ、参加者一同は、来たる除雪業務に向けて気勢を上げました。



除雪車オペレーターの方に、除雪の仕事についてお話を聞いてみました



有限会社福岡組 西村 耕基 さん

除雪車オペレーターの仕事をして30年以上になります。これまで、日南町で、主要地方道新見多里線、一般県道猪ノ子原上石見停車場線、町道等の除雪をしてきました。

雪のシーズンは毎日、天気予報とにらめっこです。雪が多い日には、午前3時に開始する早朝除雪に始まり、午前午後と1日3回除雪をします。

作業にあたっては、家の前に積り雪を残さないように注意しながら、除雪ドレーザで慎重に雪を寄せていきます。道路の両側に家屋がある箇所もあるので、きれいに仕上げるためには、2〜3往復しなければなりません。時間がかかっても、その分丁寧に除雪するよう心掛けています。

担当している路線が、地元の生活道路になつているので、地元の方から感謝してもらえることが、仕事のやりがいであり、励みにもなっています。オペレーターの仕事は吹雪の中、長時間の作業となることもありますが、体が元気なうちは仕事を続けたいと思っています。

次の100年へ… 伯備線は地域の貴重な宝です

への変化による郡外への通勤者の増加、買い物スタイルの劇的な変化などにより、地域内で生活が完結しなくなったのです。

郡外への転出、著しいマイカー普及さらには少子化も進み、高校がある根雨駅でさえ、一日の平均乗降者数は10年前の約520人から150人以上減っている今日です。

伯備線は先の地震でも懸命な努力のもと、早く復旧しましたが、災害で不通となったのを機に廃線になる路線もあります。

そうした地域では、人口減に加え、マイカー利用が常となっているので、廃線になると心情的に寂しいものの、実際にはそれほど困らないのではないかと、という見方もあります。

たしかに、電車で乗ろうにも便数が少なすぎる、駅までが遠い、ホームによっては陸橋を登らねばならないのがつらく、利用しなくなったという高齢者の声もあります。

一方で、今は日々の移動は車だという人も、いつかマイカーに乗れなくなる時が来るかもしれないと、送迎してくれる家族や近所の人との都合が合わない場合もあるでしょう。

そんな時、駅までは町営タクシーやアマゾンバスで行くことができれば、「誰に頼まなくても、体一つと明確な運賃」で移動できる鉄道があることは、日野郡で暮らし続けるための大きなアドバンテージです。

また、土地勘のない観光客にとっては、線路をたどれるということは日野郡への距離や道のりのイメージが持ちやすく、訪問の後押しにもなります。

車の有無にかかわらず、誰でも一人で行動でき、旅行者も気軽に来れる地域… それらを可能にするのは鉄道やバスといった公共交通なのです。

伯備線この100年、次の100年

日野郡内の駅が続々100周年を迎えています

今年の3月、日野郡最初の伯備線の駅、江尾駅が大正11年に開かれて100周年を迎えました。7月に根雨駅、10月に黒坂駅、そして来年以降、生山、上石見、上管駅も順次100周年を迎えます(武庫駅は昭和36年に開駅)。

江尾駅、根雨駅、黒坂駅ではコロナ禍の中でも一定の感染対策のもと、駅前に人がつどってイベント開催などで100周年を祝うことができました。

● 陰陽を結ぶ鉄道開通は地域の願い

く伯備線のもたらした地域の発展

大正8年、岡山と山陰を結ぶ路線の開通をめざす地元からの熱い要望を受けて伯耆大山から徐々に延伸してきた伯備線は、大正11年3月の江尾駅を皮切りに、どんどん新駅が開かれ、昭和3年、山陰山陽を結び全線開通しました。



▲「岡山山陰を結ぶ」とつじの季節には、岡山からたくさん客が来て、黒坂駅から臨時バスが出ていた。

日野郡が100周年を記念して公募していた駅愛称は金持おしどり駅(根雨駅) 鏡山城駅(黒坂駅)に決まりました!



▲根雨駅・黒坂駅100周年記念式典での愛称応募者への授賞式

それまでの旅は基本的には徒歩か馬でしたから、一度にたくさんの人とモノ(行商の缶詰や牛乳)を運べる鉄道の開通は飛躍的に郡内の生活を広げました。

「大根島から産物を持って牡丹を売りに来た人もよく見た(江尾駅)」

「根雨の公会堂で芝居があれば新見からも見に来ていた。汽車が着けば駅前には人であふれ、歩けなかった(根雨駅)」



▲江尾駅前と江尾城と伯備線

「高校在学中に電化され、制服が煤煙くさくなくなったのが嬉しかった」「根雨高校までの最後の駅だったから、生徒で高徒で江尾からは離れたことはない」



▲武庫駅の石碑



▲「昔は自転車があり、子供の頃、近くで遊んでいたら、駅員さんに呼ばれて自転車を手伝った」「材木とクロムの倉庫が立ち並び、千市の時は父が牛のお尻をたたいて買車に乗せた」



▲心を込めて清掃され、塵一つ落ちていません。駅は地域の顔、みんなのよりどころです。



▲「家の前に汽車が通る便利などと言われて日南町釜木から上石見に搬入してきた。本当に驚かして便利だった」



▲「上石見駅の親戚の家に来た時、初めて電車を乗って、夢中で手を振りました。(50年前の小さい子)」

【エピソード② 祝!やくも50周年】

「いやあ、やくも! 酔いましたわ〜」米子に公演に来た吉本新喜劇の役者さんの声です。

運行開始当時は、日野郡でも「すごい特急ができる」と話題になったというやくもは、中国山地をくねくねと進み、谷田峠をはじめとする急勾配も通ります。湊山(日野町)近くの勾配でも徐行するから、上石見で汽車を逃したら黒坂まで車で行って追いついた人もいました。

そこで、減速しすぎずカーブを走れる「振り子式車両」が昭和57年の電化を機に全車両に導入されましたが、酔う人はさらに酔うのです…。今年、50周年を記念した国鉄カラーのリバイバル車両が運行され、乗ってきた人の懐かしさと鉄道ファンの輝く目を一身に集めています。

● 最大の試練

「鳥取県西部地震で不通に。」

完全復旧までの42日間

平成12年10月6日に起こった鳥取県西部地震では、「R米子支社(当時)」



▲50年前の根雨駅の朝の光景。ホームには蒸気機関車が写っていますね。煤煙で服が汚れたというのはSL世代共通の思い出です。

参考文献および写真提供/『鉄道旧記録』(西日本旅客鉄道株式会社・日野町図書館蔵)、日野町

「スキー客がわんざと来たので食堂や旅館も多く、年末の日用品の市の時は店がずらりと駅前並んだ(上石見駅)」

「生山始発の一番列車に間に合いたくて、貨物列車の車掌室に乗っけてもらった(上石見駅)」「今はそんなことできない」と貨物の運転士さんは苦笑いです。

「鳥取市から大阪へ出た人も福知山線経由より遠いから、遠回りになるのに伯備線の『たいせん』で帰省してきていた(根雨駅)」

「たいせん」昭和43年まで存在し、京都へ倉敷(米子を結んだ急行「やくも」)の始発ともいえる。のちの大阪行き夜行列車(山陰本線経由)とは別のもの。

「浜からの魚の行商のおばさんたちが生山駅でバスに乗り換えて町内に散らばっていた。店が減った今、毎日行商が来た50年前の方が便利だった。ほんに多量といえるところはなかった(生山駅)」

※多里(日野町)・生山駅から16キロ離れた集落、昭和の頃はクロム鉱山で大変な騒音を見せた。

● 日野郡での持続可能な生活に必要なもの

この100年のうちに社会の人口構造や産業・生活のスタイルがガラリと変わりました。農業から「会社勤め」

再開の後も再び余震と長雨のため、根雨と生山間が不通となりましたが、今度はバス輸送でしのぎ、優にのべ6万人以上の乗客を山陰山陽の両方向へ運びました。

この数は伯備線が多くの人にとって日常の交通手段であることの証です。

▲生山駅でバスに乗り換える人々

管内で脱線や転覆はなく、軽傷者のみで済んだものの山陰本線と境線がその日のうちに復旧できたのに対し、被災箇所七割が集中していた伯備線は運休せざるを得ず、代替バス輸送もできませんでした。

そんな中、JR西日本米子支社は、阪神・淡路大震災の経験者を含む他の支社からの応援も得て、のべ4000人の4日間にわたる不眠不休の復旧作業で運転再開にこぎつけました。

【エピソード① 鉄道開通で減ったもの】

その昔、スペインで鉄道が開通すると激減したものは、「山賊」です。歩いて山越えをする旅人や行商人がいなくなったので、彼らの荷を担えなくなったというわけです。つまり鉄道とは、命と財産を守りながら安全に遠くまで移動できる手段でもあったのです。

現代では、新幹線開通後に交通事故死者が激減したと言われるように、事故の被害者、そして加害者にならない移動手段としての価値も見直されています。

★自分のフラワーアレンジメント作品で江府町をもっとおしゃれにしたい

「フラワーデザインスタジオ春の袖」加藤 浩美さん



モダンなドライフラワーのブーケ。お祝いのあともずっと飾っておけますね♪



▲武庫駅すぐのアトリエはこの看板が目印です。

「素敵!」と思わず声が出ます。アトリエにはドライフラワーの概念が変わるようなモダンなブーケがありました。フラワーデザインスタジオ「春の袖」を主宰する加藤浩美(かとうひろみ)さんは昨年7月、大阪から夫の故郷である江府町に家族5人で移住してこられました。以前から押し花関連の小物を自宅の一室で製作・通販をしていましたが、移住するにあたり、同町武庫に古民家アトリエを構え、規模を拡大してドライフラワー作品の製作に乗り出しました。生花ではなくドライフラワーを材料とすることは、鮮度保持を気にすることなく製作できる利点があるそうです。時には自宅前で採ったススキを乾燥させて材料にも使われていますが、地元産の材料にこだわりすぎないのも作品世界の幅を広げていることでしょう。作品は、ブーケ、インテリア小物、アロマキャンドルと多岐にわたり、江府町のふるさと納税返礼品にも採用され、人気を博しています。

地元のNPO法人に紹介してもらったアトリエは、まさに「自分の城」。以前の作業スペースの3倍近い広さの一軒家を借りられたので、在庫の保管から作品の展示、来客との打ち合わせまででき、何より自宅とは別の場所で朝から夕方まで集中して製作に打ち込めるようになったことは「江府町に来て本当によかった」と実感できる点だそうです。

「江府町は本当にいい人ばかりの町です。アトリエを紹介してくれたNPO法人の方も私がイベントに出たときに顔を出してくれ、いいお付き合いが続いています。暮らしは不便なこともあるけれど、だからといって米子市に住みたいとは思いません。将来の夢は、ハンドメイド雑貨も扱う、花をテーマにした喫茶店を国道沿いに持つことで、そこがたくさんの人が訪れる江府町のおしゃれなスポットになればいいな、と思います」と加藤さんは語ります。

山あいの町でのんびり暮らし、趣味を楽しむ…というのではなく、視線はしっかり事業の発展に向いています。田舎暮らしにこだわるわけではないけれど、その一方、江府町だからこそできるという加藤さんの創作活動の広がりで、未来の江府町は「花のまち」にもなっているかもしれませんね!



▲この時計や製作机は江府町役場旧庁舎の備品譲渡会でゲットしたそうです♪



▲鋭意製作中の加藤さん

☎日野振興局 地域振興課 電話:0859-72-2086 FAX:0859-72-2072

今後、新型コロナウイルス感染症の第8波とインフルエンザの同時流行も予測される中で、オミクロン株対応ワクチンの接種も始まっています。

鳥取大学医学部ウイルス学分野 景山誠二教授にワクチン接種のポイントを教えていただきました。

● オミクロン株対応ワクチンとはどのようなものですか

オミクロン株対応ワクチンは、mRNA(メッセンジャーRNA)ワクチンの一つで、従来株とオミクロン株の2種類のmRNAを成分として含む「2価ワクチン」です。従来のワクチン(従来株のmRNAのみを成分として含む「1価ワクチン」と比較して、現在流行しているオミクロン株に対する重症化・感染・発症の予防効果が強いことが期待されています。

また、異なる2種類の抗原(体内で免疫反応を誘導する物質)があることにより、誘導される免疫も、より多くの種類の新型コロナウイルスに反応するため、今後の変異株に対しても有効である可能性がより高いと期待されます。

● オミクロン株対応ワクチンにはどんな副反応がありますか

ファイザー社、モデルナ社製ともに、主な副反応として、注射した部分の痛み、頭痛、関節や筋肉の痛み、疲労、寒気、発熱等がありますが、ほとんどが軽度又は中等度で、これまでに接種を経験したワクチンと比較して、はっきりとした差異はなく、現時点では懸念は認められないことが確認されています。

ただし、新しい種類のワクチンのため、接種後に気になる症状がみられた場合は、かかりつけ医にご相談ください。

● インフルエンザ予防接種は、同時に受けてもいいですか

オミクロン株対応ワクチンは、インフルエンザワクチンとの同時接種が可能です。ただし、その他のワクチンは、オミクロン株対応ワクチンと同時に接種できません。この場合、一方のワクチンを受けてから他方のワクチンを接種するまでに2週間以上あけてください。

● ワクチン接種対象年齢の引き下げのおしらせ

11月1日から県内での乳幼児(生後6か月~4歳児)のワクチン接種も始まりました。2回目接種後の発症予防効果は51%と報告されています。この機にかかりつけの小児科医と相談の上、お子様への接種をご検討ください。米国では2ヶ月間に100万回接種のペースで使用され、副作用はあっても軽いと報告されています。

☎日野振興局 地域振興課 電話:0859-72-2086 FAX:0859-72-2072



鳥取大学医学部
景山教授



表紙写真

タイトル:下蚊屋の荒神神楽

撮影者:日野町 松本 利秋

撮影者コメント:江府町下蚊屋に伝わる県無形文化財指定・下蚊屋荒神神楽(明(みょう)神社・小椋和美会長11人)。今回は、その内の5人が名高い出雲神話を題材にした「八重垣の中の大蛇(オロチ)退治」を披露。神楽囃子の素朴な太鼓と笛の音が館内に響く中、素戔嗚尊(スサノオノミコト)が2頭の大蛇を退治するというストーリー。観客の訪日外国人旅行者は、「ワオ、スバラシイ!」と拍手を送り、短い時間でしたが演舞を存分に楽しませていました。